

遠望近思

令和7年3月21日発行（第72号）

未来を生きる子供たちのために

東松山市教育委員会教育委員 利根川 澄子

学校訪問、運動会、市内音楽会などで、本市の子供たちの活躍する姿や子供たちを支える教職員の皆様の姿を拝見し、底知れぬパワーを感じて胸が熱くなりました。日頃の教育現場で奮闘されている皆様に、心から感謝申し上げます。

さて、文部科学省が2023年に策定した「教育振興基本計画（第4期）」では、「持続可能な社会の創り手の育成」とともに、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられています。そこでは、ウェルビーイングとは「身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念」であり、また「多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態であることも含む包括的な概念」と説明されています。



私たちは幸せに生きるべきである。

これからの激動の社会を生き抜くためには、この基本的な考え方を念頭に置き、自分自身だけでなく、自分を取り巻く人や物の幸せな状態にも思いを馳せることが、あらゆる人にとって必要不可欠なことになっていくのだと思います。

社会の閉塞感が心身や生活に影響を及ぼす子供たちが、好きなことや興味のあることに出会い、個人の可能性が開花し発揮される世の中になるよう、我々大人達は支援していかなければなりません。そのためには、教職員の皆様のウェルビーイングを確保することが必要です。学校が心理的安全性の保たれた場であり、教職員の皆様のウェルビーイングを高める場であることを節に願います。

最後に、ピアニストである私が常に心に留めている言葉を2つ紹介します。

一つ目は、演奏者としての「平常心（びょうじょうしん）」という禅語です。この言葉は、「ありのままの気持ちを受け入れて表現する」ということを指します。緊張する時は正直に緊張すると言えば良い。辛い時は正直に辛いと言えば良い。自分の心に素直であることが人生をより良く生きるための秘訣になるという教えです。

二つ目は、指導者としての「不動心（ふどうしん）」です。同じく禅語であるこの言葉は「何もしない、何も変えない」という意味ではなく、「自分のやるべきことや立ち位置をしっかりと見極めた上で、時代や環境に合わせて動き続ける」ことを指します。物事に囚われず、常にフレキシブルであれという教えです。

未来を生きる子供たちを育む教職員の皆様におかれましては「ありのままを受け止め、変化に対応すること」を意識した教育活動が展開されることを期待しています。

本誌の内容は東松山市のホームページにも掲載しており、
右の二次元コードからアクセスすることができます。

→→→→→



子供たちの笑顔あふれる豊かな学級生活の創造を目指して

令和6年度の東松山市学校教育研究推進委員会では、子供たちを育む視点として次のことに重点をおいて取り組みました。

① 学力向上につながる非認知能力を伸ばす取組

知識基盤社会において、認知能力を向上させることは重要である。加えて予測困難な将来を生き抜く子供たちを育成するためには、「自己効力感」や「やり抜く力」など、非認知能力が重要な役割を果たす。非認知能力を意図的に伸ばすため、授業や学校生活の中でどのような取組が効果的であるか実践的に研究する。

② 小中連携を推進し児童生徒理解を深める取組

小中学校の連携については、中1ギャップの解消はもちろん、お互いの校種の教員が交流することでそれぞれのよさを共有し、指導力の向上が期待できる。一般的に、小学校でのきめ細かな指導を、中学校での専門的な指導をそれぞれ共有し互いの教育活動に生かしていく。

本号では、この2点について実践した内容や作成した資料等を紹介します。

1 非認知能力を高める実践と東松山市学級経営スタンダードの更新

子供たち一人一人のよさをとらえ、学級の人間関係を豊かにすることで、各教科等の授業において主体的・対話的で深い学びの実現につながると考え、東松山の学習指導スタンダード、学級経営スタンダード（年度当初版）を土台として研究・実践を行っている。その中でも非認知能力の向上に強い相関があるとされている学級経営に視点をあて、年間を通じて効果的な指導・支援が行えるように学級経営スタンダードの更新を図った。年度当初版から年間版（Ver. 2.0）へと更新するために、下のとおり項目を追加した。

学級経営スタンダード Ver.2.0 目次

○発刊によせて	p.1
○学級経営の基本的な考え方	p.2
○信頼関係を築く年度当初の出会い	p.3
○朝の会・帰りの会の工夫	p.4
○学級経営の核となる学級活動の充実	p.5
【追加】○学級活動のポイント	
○年度当初学級活動の3つの実践	p.6
○学級目標と個人目標の設定	p.7・8
【追加】○個人目標の更新	
【追加】○学級経営と学習指導	
○係活動と当番活動の特質	p.9・10
【追加】○係活動の充実	
○学校生活の基盤となる教室の環境整備	p.11
○生徒指導の基礎	p.12
【追加】○行事を通じた学級経営	
【追加】○保護者との連携（保護者面談の工夫）	
【追加】○保護者との連携（学級懇談会の工夫）	

東松山市の教育における2つの基本

**東松山の学習指導
スタンダード(改訂版)**
—授業の基礎・基本—

三宿題・手伝い・明日の準備

二あいさつ・返事・靴そろえ

一早起き・早起き・朝ごはん

東松山の子どもたちはこれができます

熱意、誠意、創意ある東松山教育



令和5年3月
東松山市教育委員会

年間版

**東松山の学級経営
スタンダード Ver.2.0**
～子供たちの笑顔あふれる豊かな学級生活の創造を目指して～



令和7年3月
東松山市教育委員会

— — — ここからは学級経営スタンダードに今回追加した内容の一部を掲載しています。 — — —

学級活動のポイント

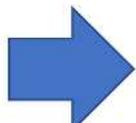
特別活動は全ての活動の中心に話し合い活動があります。その基盤となる活動が学級活動です。学級活動の特質の違いを踏まえて指導を行っていくことが大切です。話し合い活動の質を深め、よりよい合意形成や適切な意思決定になるように指導方法の工夫・改善を図ります。

学級活動(1)・・・提案理由をもとに、意見の違いを大切に、学級としての考えをまとめたり決めたりする。
(よりよい合意形成)

学級活動(2)(3)・・・学級での話し合いを生かして、自分の考えを広げたり、考えたりして自分に合った具体的な解決方法を意思決定し、努力できるようにする。(適切な意思決定)

<学級会(1)のポイント>

- 自発的、自治的な活動
- 教師の適切な指導の下
- 集団としてよりよく合意形成を図って実践する



- <適切な議題設定>
- ・学級や学校の生活をよりよいものにする。
 - ・学級全員に関係すること。
 - ・必要感のある議題であること。
- <話し合うことの設定>
- ・45分(50分)かけて話し合う価値のある内容に絞る
 - ・「何をするか」「どのようにするか」「係分担はどうするか」が基本となる。

個人目標の更新

年度当初、学級目標を踏まえて個人目標を設定します。子供たちは個人目標を意識すると主体的に行動できるようになります。それとともに、活動をふりかえり、現状を客観的にとらえることで着実な成長につながっていきます。このため、個人目標は状況に応じて更新していくことが重要です。更新は次のようなことに留意して行うとよいでしょう。

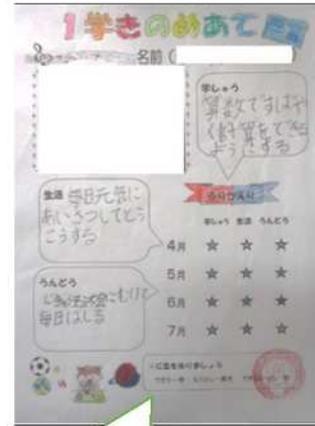
(1) 自己評価

①時期

- ・1か月程度で自己評価をしていく。目標の更新は状況に応じて随時できるようにしておく。
- ・自己評価の結果、目標がずっと変わらないという場合は、目標が現状と合っていないことがあり、意欲の低下につながることもある。このようなときは教師が相談にのり、スモールステップで成功体験を重ねられるように修正したり、新たな目標をつくり直したりするとよい。

②状況（よくできた・できた・もう少し・前の自分よりがんばった）

- ・個人の行動目標に対して、どの程度取り組めたかを客観的に見つめ直せるよう、3段階（よくでき・できた・もう少し）でふりかえりを記入する。
- ・個人内評価を重視して「前の自分よりがんばった」という項目を設けるのもよい。



ふりかえりの視点と毎月の評価の記入欄がある個人カード

1学期の目標							
元気な子 (思いどおり達成)		考える子 (学習行動)		優しい子 (友達協力)		自分の目標	
【ふりかえり】◎よくできた ○できた △もう少し ☆前の自分よりがんばった							
4月	5月	4月	5月	4月	5月	4月	5月
6月	7月	6月	7月	6月	7月	6月	7月

学校教育目標と同じように知育・徳育・体育の視点で個人目標を立てる。

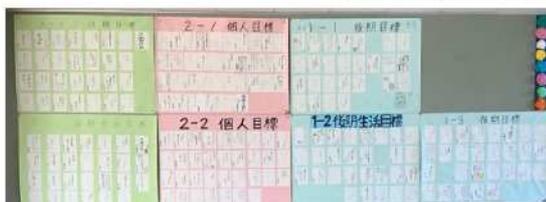
- ・いつ
- ・どのように
- ・どれくらい

目標の記入欄だけを短冊にし、いつでも更新できるようにする。更新時はその部分だけを重ねて貼るようになる。

「自分の目標」「その他」の項目を作ると、行事や家庭での目標など、がんばりたいことを自由に書くことができる。

毎月の自己評価の例

- ◎ よくできた
- できた
- △ もう少し
- ☆ 前の自分よりがんばった



中学校の例



小学校の例

達成した個人目標は新たな目標に更新し、継続的な成長につなげます。ふりかえり際には学級目標にも目を向けられるようにし、個人の成長と学級集団の高まりが結びついていることも確認するとさらに効果的です。

学級経営と学習指導

学級経営と学習指導は、それぞれ別に考えるのではなく一体的に捉えていくことが大切です。埼玉県学力・学習状況調査からも、「学級経営」と「主体的・対話的で深い学び」、「学級経営」と「非認知能力」「学習方略」は相関関係があると分析されています。

つまり、子供たちが学校生活の中で多くの時間を費やす「授業」の中で、よりよい学級（互いに高め合える関係性）をつくっていくことが教師の大切な役割です。

【授業の中で学級の人間関係を深めるためのポイント】



(1) 学級目標の活用

①具体的な姿を意識した励まし

授業中は教科等の目標と合わせて、学級目標も意識して指導や支援を行います。「○○な子(生徒)」の具体的な姿をイメージし、それを目指すことを常に意識することで教師の声かけが具体的になり、子供たちも継続して取り組めるようになります。

②子供たちの姿に応じた声かけ

「先生が見守っている」ということは、子供たちにとって励みや刺激になり安心感を与えます。そのため、できている姿、努力している姿を見取るよう留意し、その姿を言葉にして伝えます。

③共感とふりかえり

できなかったことができるようになったときは、一緒に喜び、なぜできるようになったのかを聞き、大いに称賛します。

(3) 非認知能力の育成を支える教師の心構えと手立てと指導

これからの時代を生き抜いていく子供たちには、知識・技能の習得はもちろん、それにプラスして非認知能力の育成が求められます。非認知能力は、認知能力でないものを幅広く指す総称です。なかでも子供たちの生活や発達に重要なものとして「社会情緒的能力」が挙げられます。その内容は、「自分に関する領域」(自己効力感、自己制御など)、「他者に関する領域」(他者の感情や思考の理解など)、「自分と他者や集団との関係に関する領域」(人間関係、コミュニケーションなど)の3つに大別されます。

子供たちの非認知能力にどのようにアプローチしたらよいか、ここでは埼玉県学力・学習状況調査の活用例として、質問調査の項目をもとに、授業における手立てを中心にまとめました。

非認知能力と 県学調の質問項目 (◇)	教師の心構え	学習場面の例 (・) と 教師の手立て (□)
<p>自己効力感</p> <p>(自分はそれが実行できるという期待や自信)</p> <p>◇授業ではよい評価をもらえるだろうと信じている。</p> <p>◇先生が出した一番難しい問題も理解できると思う。</p>	<p>誰もが自分の成長を願っています。スモールステップの過程や小さな成功体験も認めて褒めていきましょう。それを見つける目を持つことが教師として大事なことです。</p> <p>無理におだてるのではなく、まずは目の前でがんばっている姿を言葉にして伝えましょう。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を解く場面 ・技能を習得する場面 ・体験する場面 </div> <p>□スモールステップとなるよう工夫し、より多くの成功体験ができるようにする。</p> <p>□具体的な声かけやICTの活用で、成功した時のことをイメージできるようにする。</p> <p>□失敗を認め、次の挑戦の場を用意する。</p>

係活動の充実

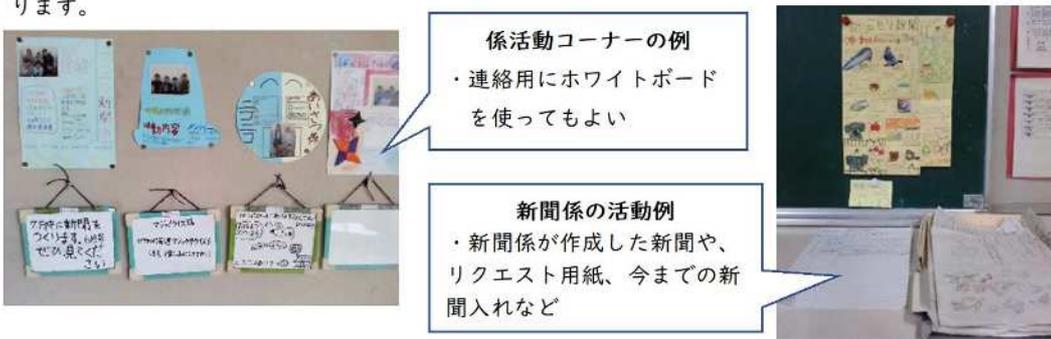
係活動は、子供たちの主体的な活動をねらいとし、豊かな学校生活を創造していく活動です。その結果、学級生活を組織的に向上・発展させていきます。また、活性化するために、学期の区切りなどで係活動の再編を行うことも必要です。

(1) ポスターを活用した工夫

子供たちが休み時間などを活用して活動したいと考えた場合に、自分たちの力で活動できるような環境づくりをしておくことが教師の大切な役割です。学級会で決まった係活動を行う際、子供の創意工夫を生かし、一人一人のよさが発揮できるようにしていきます。

学級の係全体が活性化するように、係活動コーナーやアイデアを出し合うなどの係ポストを設置したり、朝の会や帰りの会で取組を報告し合ったりすることも効果的です。

互いの活動内容に関心をもち、認め合いながら、協力してよりよい学級生活つくろうとする意識が高まります。

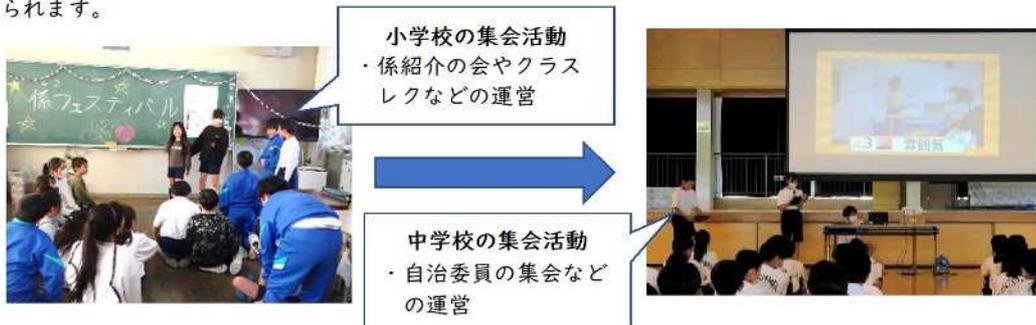


□ 係活動再編成の具体例

分類	1学期の係	2学期の係（再編成）
統合	○レク係 ○クイズ係 ○歌係	共通するので統合します。 ○集会係
分割	○新聞係	活動が多いので分割します。 ○かべ新聞係 ○プリント新聞係
継続	○生き物係	○生き物係
廃止	○落し物係	2学期以降は各自で気を付ける
移行	○連絡係	2学期以降は日直の仕事にする
新設	学級を豊かにする活動を新設します。	○イラスト係 ○学級のあゆみ係

(4) 係活動の内容や活動（係活動を生徒会活動へ活かす）

小学校の間に子供たちが主体となって係活動を行っていると、それは中学校の生徒会活動にもよい影響を与えていきます。たとえば、レク係や集会系の活動で、お互いに話し合ったり、折り合いをつけたりする活動は、中学校の自治委員の活動につながっていきます。また新聞係で、クラスや他学級へのアンケートなどの経験をする中で、中学校の広報委員としての活動が、今までの経験を基に深まっていくと考えられます。



行事を通じた学級経営

学級経営を進めていくにあたって、各教科等の授業だけでなく学校行事もよりよい学校生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるために大切な場となります。ここでは子供が学校行事に主体的に取り組むために、教師が大切にしたいことを紹介します。

1 子供の意欲を高めるオリエンテーション

学校行事のねらい、育てたい資質・能力、育てたい子供の具体的な姿を明らかにして指導をします。具体的に5つの場面を紹介します。

(1) 安全性

子供が主体的に安全に気を付けて活動できるような「安全性」を学ぶ場を設定します。



交通安全教室

<例>①「交通安全教室」

自らの安全を確保するためにどんな行動をすべきかについて体験するとともに、自らの安全が多くの方の見守りによって確保されていることを学びます。

<例>②「避難訓練」

地震、火災、不審者の侵入など、平穏な学校生活を脅かす事態が発生した際、教師が不在の場合があることも踏まえ、とっさの出来事に備えて、子供だけでも行動できるよう実践的に学びます。

(3) 主体性

子供自ら選択して「主体性」をもって活動する場面を設定します。

<例>①「係の活動・当番の仕事」

自分自身に任せられた仕事に取り組ませることによって責任感や物事をやり抜く力を育てます。また、取組の中で自分のよさを友だちから受け入れられたり、認められたりして、自信をもって自分の力を発揮できるような自己肯定感を育てます。注意点として、小学校低学年では、教師が主導性を発揮しつつ、子供一人一人が学級内の友人たちと協力して成功体験を得られるように工夫することが大切です。

<例>②「修学旅行」

行動班でのコース選択において、「コースの設定のポイント」についての事前確認が大切です。上で自分たちが出かけたい寺社、名所等を行動班内で決めますが、グループ内で適切な合意形成がされているか（特定の子供の意見に流されていないか）見守る必要があります。



行事ごとに一人一人のふり返りを
掲示物に生かした例

(4) 公共性

体験活動は、実社会と関わる場が多いことから、集団のルールや約束を守るという「公共性」を学ぶ工夫をします。

<例>①「遠足などの校外学習」

外部の方に質問をする際のマナー、礼儀等、事前の学習でしっかりと学ぶ必要があります。また、集団で施設に移動する際のルールの確認、移動時の交通ルールの順守など、子供たちの間でもお互いに声掛けができるように確認することが大切です。

保護者との連携（保護者面談の工夫）

学校と保護者をつなぐ大切な行事には、「学級懇談会」の他に、「保護者面談」もあります。学校生活の充実を図る小学校と、さらに進路選択を見据えた中学校とでは、保護者面談の内容にもちがいがありますが、基本的には以下の点に留意するとよいでしょう。個々の実情に応じて丁寧に面談を行うことが大切です。

（１）会場としての場の工夫

①待ち時間

面談は定刻に始められるように心掛けましょう。ただし、場合によっては、前の面談が延びてしまうこともあります。また、保護者は、早めに来校する場合があります。そこで、待ち時間を有意義に過ごしてもらえるようなひと工夫をおすすめします。

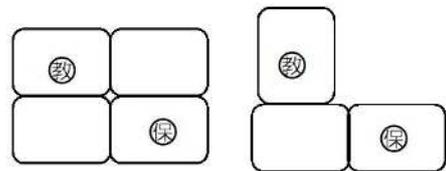
（例）・子供たちの作品や写真といった学校での活動の様子がわかるものの掲示

・子育てのヒントになるような書籍の紹介

②座席配置の工夫

面談に限らず、人と話をする際に常に視線が合う状態というのは、圧迫感があり緊張感が高まります。そのため、思っていることが話しづらくなる場合があります。短時間の保護者面談を有意義なものにするため、座席の配置を保護者とななめに向かい合うように工夫します。

右の図のように配置すると、保護者の荷物置き場も確保できます。また、廊下で待機している保護者に面談の内容が漏れないよう、入口からの距離に注意するなどの配慮も必要です。



【座席の配置例】

保護者との連携（学級懇談会の工夫）

授業参観の際に行う「学級懇談会」は、学校と保護者をつなぐ大切な行事です。そして、教師と保護者の信頼関係を構築する絶好の機会でもあります。教師の教育観や人間性、学級経営方針についても理解してもらえるような場にすることが求められます。「学級懇談会」の特質を踏まえ、次のような点について確認するとよいでしょう。

（１）会場としての場の工夫

①受付や入口の配慮

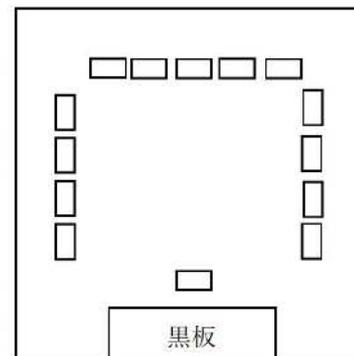
受付にはご来校への感謝と案内が記載されている掲示物を用意します。また、授業参観と懇談会という項目が入った名簿と筆記用具を準備します。懇談会に参加できない保護者もいるため、出欠席を確認しましょう。花を飾ると場が明るくなります。

②座席配置の工夫

コの字型にすると、保護者同士の顔を見ながら懇談することができます。また、座席の上に子供用ネームプレートを置くと、自席を迷わずに着座することができます。子供の名前と保護者への感謝のメッセージを書いたプレートが子供が作成すると、保護者も来校する価値を見出すことができます。

③教室掲示

授業参観・懇談会や学校公開の度に掲示物が新しくなっているか確認しましょう。また、子供が作成した掲示物が全員そろっているかも確認する必要があります。事前に学年で同様の掲示になることを心がけましょう。



教室レイアウト↑

2 児童生徒理解を深める小中連携の推進

小学校と中学校が協力し、児童生徒の学びや成長を円滑につなげることによって、教育の質を向上させることを目的として連携の推進を図りました。連携の内容には次のようなものが挙げられます。

(1) 学習面での連携

- ・学習内容の接続…小学校と中学校のカリキュラムをつなぎ、学習内容のギャップをなくすことでスムーズに学習を進められるようにする。
- ・学習習慣の継続…小学校で身につけた学習習慣を中学校でも継続しやすくすることで、学力向上につなげる。

(2) 生活面や指導面での連携

- ・環境の変化による不安の軽減…小学校から中学校への進学時の不安を減らし、生徒が安心して学校生活を送れるようにする。
- ・共通の指導方針の確立…生活指導や学習指導のルールを統一することで、一貫した教育を行い、生徒が戸惑わないようにする。

(3) 児童生徒の成長を支える連携

- ・小中の教員間の情報共有…児童生徒の特性や学習状況を共有することで、一人一人に合った支援や指導を行うことができる。
- ・キャリア教育の充実…小学校から中学校への進路指導やキャリア教育を一貫して行うことで、将来の選択肢を広げる。

(4) 地域との連携強化

- ・地域ぐるみの教育体制の構築…地域の特性を生かした体験や学習活動を小中学校で継続的に実施できる。

松山中学校区(松山中学校・松山第一小学校・青鳥小学校)の取組

非認知能力を高める小中連携の取組

<目的>

予測困難な将来を生き抜くための「非認知能力」の向上に小・中学校で一貫性をもって取り組み、長期的・継続的に育てていく。

<取組>

○小中の活動の相互参観

7/12 青鳥小参観(すあしの時間・小1算数)

10/7 松山中参観(体育祭団練習・予行)

10/29 松一小参観(音楽集会・小4図工)

○今後の小中連携の活動検討

・長期休業中などを利用した小中全教員参加型の研修会を提案していきたい。

・小中の児童生徒が相互訪問する機会(音楽集会・あいさつ運動など)を設けていきたい。

<期待される成果>

○授業や活動の形態を工夫することで、「自己効力感」や「やりぬく力」がより育まれていく。

○児童生徒を育てる視点を共有し、日頃の教育活動を小中で合わせていくことで、児童生徒の自信や安心感につながりつつ、一貫した活動から「勤勉性」や「向社会性」がさらに育てられていく。



きちんと整列して順番に物を取りに行く「向社会性」

南中学校区(南中学校・高坂小学校・野本小学校・唐子小学校)の取組

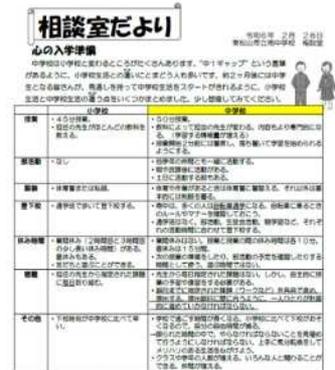
生徒指導と教育相談を通じた小中連携

<目的>

小中連携を通して、中1ギャップ解消を目指すなど、生徒指導の諸課題について、情報交換を密に行い連携して取り組む。

<取組>

- ・相談室より(相談員・SC)「中学校準備号」として、数回発行する。(3学期)
- ・校区内小学校(高坂・唐子)へ定期的に訪問し見学及び情報交換を行う。(水曜)
- ・授業参観を行う。(学年末)
- ・校区内小学校4校それぞれに、相談員による訪問を行う。(月1程度)
→授業・休み時間の見学、相談等
- ・校区内小学校4校それぞれに、管理職が中心となって訪問する。
→体育祭等の学校行事
- ・次年度入学予定の児童・保護者が中学校を見学する。
(特別支援学級入級希望者)



<期待される成果>

- ・準備号により兄弟や知り合いのいない児童に対しても、中学校への見通しが可能となり不安解消に繋がっている。生徒指導訪問では、実際に通う中学校の教師が訪問し、情報共有を行うことで、不登校解消や家庭環境の把握に繋がり深い生徒理解に繋がっている。
- ・出前授業や部活動体験や見学などで、直接中学校の生活にふれる機会を増やすことも良い方策だと思われる。

東中学校区(東中学校・新明小学校・新宿小学校)の取組

児童・生徒・教職員のつながりと相互理解を大切に

<目的>

小中学校が互いの授業や研修会に参観・参加することでお互いの実態を知る。カリキュラムや指導観などを共有し、よさを知ることでお互いの教育活動にいかしていく。

<取組>

○教職員の交流事業について

各学校で開催される、学校課題研究に基づく、授業研究会やその他の研修会で相互に参加し合う。その学校の課題を知り、解決のための策や手だてをお互いに理解していく。

- ・夏季研修会 新明小学校開催 7.25 学校課題研修
「学びの共同体」佐藤学氏講演

・授業研究会

- 新宿小学校…10月3日 5年生 体育(ボール運動)
- 新明小学校…11月3日 5年生 総合的な学習の時間(私たちの生活と水産業)
- 東中学校 …10月24日 1年生 数学(変化と対応「座標」)

・学校保健委員会 東中開催

○児童生徒の交流事業について

東中学校での入学説明会にて6年生から持ち寄られた質問に生徒会が中心となり答える。小学校で行われる低学年の校区探検で東中の生徒に案内してもらったり、中学校の総合的な学習の時間とタイアップして小学校のキャリア教育などにつなげて交流を図ったりする。小学校同士でも合同水泳授業や学習発表会などを計画する。

※この他、東中学校の人権教育講演会に校区の小学校の保護者にも参加を呼びかけて開催する。

<期待される成果>

- ・互いの授業を参観することで、児童生徒の学び方や指導方法、カリキュラムを知ることができる。
- ・同じ中学校に進む児童がどのようなカリキュラムで学んできているかを知ることができる。
- ・自校の課題を見つめ直すことができる。



北中学校区(北中学校・松山第二小学校・市の川小学校・大岡小学校)の取組

カリキュラム・マネジメントにつながる授業参観を通じた連携

<目的>

中学校への円滑な進学や、9年間を通じたカリキュラム・マネジメントの充実を図る。

<取組>

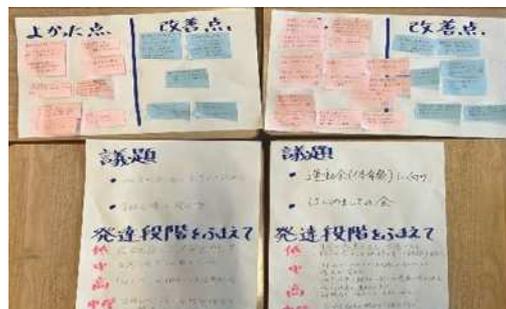
- ・各学校の学校課題研究における授業研究会に参加して、児童生徒の様子や実態を把握する。
- ・オンライン会議ツールを活用して各校との交流を可能にし、授業や児童生徒の活動の中で連携していく。
- ・中学校の教職員による小学校6年生への体験授業を行う。

<期待される成果>

- 児童生徒の様子が分かり、今後の共通理解・共通行動の一助となる。
- 互いの教職員が参観し校内の教職員以外の来校者があることで、児童生徒の目的意識や相手意識が高まり、教育効果が向上する。



授業参観後の研究協議の様子



白山中学校区(白山中学校・桜山小学校)の取組

小中一貫 ～学校行事への参加と授業の連携～

<目的>

授業や行事へ参加することで9年間を見通した学校生活を送れるようにする。

<取組>

- 5月 体育祭 小学校 5,6 年生(一部競技参加)
- 6月 授業参観 中学校1年生授業(小学校教員参加)
情報交換等々
- 8月 教員合同研修会「知識構成型ジグソー法(※)」
(小中学校教員参加)
※互いに自分が学習した情報を紹介し合って
ジグソーパズルを解くように全体像を浮かび
上がらせる手法
- 9月 合唱コンクール 小学校 6 年生(参観)
- 1月 授業参観 小学校 6 年生授業(中学校教員参加)
情報交換等々
- 1月・2月 部活動体験 小学校 6 年生対象(任意)
- 通年 ① 出前授業 小学校へ 音楽、特別支援、美術
中学校へ 数学、家庭科
- ② 英語検定 年2回(小中で実施)



<期待される成果>

- ・スムーズに入学後の学校生活を送ることができる。授業規律や部活動についても順応することができる。
- ・小・中学校教員が指導方法の改善や基礎学力への必要性の意識を高めることができる。



令和6年度東松山市学校教育研究推進委員

	氏名	所属		氏名	所属
委員長	長澤 誠	新宿小・校長	副委員長	川上 嘉久	北中・校長
委員	大矢 輝啓	松山第一小・教諭	委員	半田 北斗	松山第二小・教諭
委員	浅見 雄大	新明小・主幹教諭	委員	長谷 隆志	大岡小・教諭
委員	成田 恭平	唐子小・教諭	委員	関根 正憲	高坂小・主幹教諭
委員	鎌田 美穂	野本小・教諭	委員	小高 知成	市の川小・主幹教諭
委員	星野 勇	青鳥小・主幹教諭	委員	三谷 アスカ	新宿小・主幹教諭
委員	中澤 嘉春	松山中・教諭	委員	上村 拓也	桜山小・教諭
委員	飯島 伸介	南中・教諭	委員	黒川 新	東中・教諭
委員	森田 淳一	北中・教諭	委員	吉田 悠	白山中・教諭
